

若手研究者コラムリレー

黒須 朱莉 (くろす あかり)



プロフィール

びわこ成蹊スポーツ大学 准教授
日本体育・スポーツ・健康学会の専門領域: 体育史

岡山県生まれ・茨城県育ち
筑波大学大学院人間総合科学研究科修了 修士(体育学)
一橋大学大学院社会学研究科単位取得退学 博士(社会学)
2016年から現職

E-mail: kurosu@bss.ac.jp



2009年冬 オリンピック休戦の記念碑にて(Olympic Museum/Lausanne, Switzerland)

わたしの研究



オリンピック・ムーブメントの歴史を IOCの試みや議論から描く

「平和でより良い世界の構築に貢献すること」を目指すオリンピック・ムーブメント。

オリンピック・ムーブメントの頂点として位置付けられるオリンピック競技大会は、政治に関わる「問題」を抱えながら歩みを進めてきました。特に冷戦期は、国家間の政治的な対立や思惑がオリンピックの場に露骨に流れ込んだ時期でもありました。理想と現実のなかでオリンピックは葛藤してきたのです。

わたしの問題関心は、次のとおりです。

オリンピック・ムーブメントを否定する「問題」に対して、その主導者である国際オリンピック委員会 (IOC) は、どのように対応してきたのか？ オリンピックを評価するためにまずもって必要なのは、IOC自身がその目的を実現するために、いかに困難に対峙し、いかなる行動を展開してきたのか、そうした事実の把握なのではないだろうか？

以上の点にもとづき、IOCの会議議事録を読み解きながら2つの試みの展開を追跡しています。オリンピックにおける過剰なナショナリズムを抑制しようとする「国歌国旗廃止案」と、争いの中断を求める「オリンピック休戦」です。

こうしたIOCによる試みと議論の展開を通して見えてくるオリンピックの歩みを、オリンピック・ムーブメントの歴史として描くことが「わたしの研究」です。

わたしの渾身の論文・書籍・記事

必読

黒須朱莉「近代オリンピックの理想と現実—ナショナリズムのなかの愛国心と排他的愛国主義」石坂友司、小澤考人編著『オリンピックが生み出す愛国心 スポーツ・ナショナリズムへの視点』かもがわ出版、2015年。

(なんでも帳)



2001年9月11日、世界同時多発テロ。わたしにとって、それははじめてみる「戦争」でした。生まれてはじめて「平和」を強烈に意識したのもこの時です。その5ヶ月後、傷跡が生々しく残った米国で開催されたのがソルトレイクシティ冬季オリンピックでした。世界中のアスリートが集まり、閉会式で笑顔で交わる情景は、「オリンピックと平和」を考える大きなきっかけになりました。

その後は、関心に触れるものには手当たり次第、「顔」を出しました。最初は、あるフォーラムへの参加だったと記憶しています。高校3年生の秋のことです。朝日新聞の社告に掲載された「21世紀国際フォーラム」参加者募集の小さな記事を母が見つけてくれました。「スポーツと国際交流」がトピックに含まれていたため、すぐさま参加のハガキを投函し、高まる気持ちを抑えながら茨城県から東京の有楽町朝日ホールに行っただけを覚えています。

無我夢中で動きつづける日々は幸せで刺激に満ちた時間でしたが、問題意識や思考を深めることは後回し。地に足をつけて本気で考えるために、研究の道を選ぶことにしました。

走り続けた過程で、数えきれないほどの素敵な出会いがありました。本当にありがたいのは、多くの方々のご助言をくださり、背中を押してくださったことです。その時に出会った先生方と、いまではいっしょに仕事をやる機会にも恵まれるようになりました。

そして気がつけば、今度はわたしが誰かの背中を押す立場になりました。先輩方からいただいたご恩を、後輩や学生たちに返していきたいと思います。

日本体育・スポーツ・健康学会
若手の会からのお知らせ

2018年8月に日本体育・スポーツ・健康学会若手の会が発足しました！ → メーリングリスト登録フォーム:

<https://goo.gl/forms/zGMPdPq5fY3kcB5q2>

学会大会、研究会等の開催や報告者募集に関する案内、公募や助成金情報等に関する情報提供を配信予定です。皆様からも、メーリングリストで周知したい情報がありましたら、下記までご連絡ください。

taikugakkaiwakate@gmail.com

